1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4678600125		
法人名	社会福祉法人潤生会		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	鹿児島県大島郡瀬戸内町古仁屋西7番地3		
自己評価作成日	平成22年10月20日	評価結果市町村受理日	平成23年3月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kagoshima-kaigonet.com>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成22年11月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1・水分補給には利用者が好む薬草茶を使っている。くび木、ハンシロウ茶は殺菌作用、利尿作用があると言われ、血圧、蜂力織炎などに良いとされている。</p> <p>2・入浴は干したヨモギを湯舟にいれ湿疹予防に役だっている。</p> <p>3・夏の食材は高価になるのでネギ、ニラ、ハンダマを自作して豊富につかった。</p> <p>4・クリスマスパーティーは隣り近所にも声を掛け楽しい時間をつくっている。参加出来ない時はケーキ等を届けている</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員は、地域の方々や近隣の住民と利用者の間に入り、コミュニケーションが図れるように支援している。</p> <p>町内清掃に参加したり、子供会の餅つきや地域の夏祭りに参加している。</p> <p>グループホームのクリスマス会・七夕祭りに地域の方々をお誘いして、楽しい時間を作っている。</p> <p>町の防災訓練に参加し、地域とのつながりを作っている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型理念「温もり・安らぎ・明るさ」をモットーに喜びと生きがいがづくりに努め、家庭的な雰囲気の中で(2)地域との交流をすすめ、地域の一員としての暮らしのお手伝い。(1、2、3)までかけ実践につなげている。	職員は、地域との交流をすすめるという理念を共有し、散歩の途中などに、近くの公園でゲートボールの練習している地域の方々や近隣の住民と利用者の間に入り、コミュニケーションが図れるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加して事業所の祭りや運動会に地域の子供会もボランティアや種目に参加協力をしひまわりの年間行事にも地域子供会交流を組み入れ七夕を一緒に作り、お茶会を楽しんでいる。	自治会に加入して、第3日曜日の町内清掃に参加したり、子供会の餅つきや地域の夏祭りに参加している。グループホームのクリスマス会・七夕祭りに地域の方々をお誘いして、楽しい時間を作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会議に出席して町への要望書を自治会を通して提出している。地域のヘルパー育成に実習生の受け入れをしてヘルパー育成に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員の意見で今まで足踏みをしてきた避難所の扉の取り付けが終了、避難通路の確保が西側にできた。	運営推進会議は、年5回開催されているが、行政の職員の参加がみられない。運営推進会議録を町役場に届けている。	運営推進会議を行政の職員が参加しやすい日時に計画され、年6回開催し、事業所の運営に助言をもらい、サービスの向上に活かされることを望みます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	瀬戸内町へ防災訓練の参加申し込みをし幹事会へさんか、8/29の訓練には職員全員参加することができた。防災無線機の取り付けを要望し取り付けしてもらった。	市町村の行事に、法人の代表として職員が参加している。町の防災訓練に職員全員が参加した。運営推進会議録を町役場に届けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待、身体拘束は絶対有っては成らないこと。身体拘束廃止マニュアルを用いミーティングで周知している。	ミーティングでマニュアルの読み合わせを行い、身体拘束はしないことを確認しあっている。マニュアルの内容が、身体の拘束の内容だけである。	グループホームでの指定基準における禁止の対象となる具体的な行為や言葉での拘束が正しく理解できるようにマニュアルの充実を図り、ケアの向上に期待します。
7		○虐待の防止の徹底			

鹿児島県 グループホーム ひまわり

内 部	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを用いミーティングで常に管理者から申し伝えがあり、介護職全員周知している。二交代制の夜勤体制を設けたのも虐待を防ぐため。		

自 ら	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	瀬戸内町主催の勉強会に参加し成年後見制度について学ぶ機会があり職員にも伝達している。利用者一人が対象に成らないか？包括職員に尋ねた事もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要説明書に基づき、不安、疑問点など聴き納得のいくように話し合いをもっている。状態変化により契約解除に至る時は医師、家族、入院先のケースワーカーを交え納得のいくまで話し合いをもっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回は本人の状態を手紙でお知らせし面会の要請も本人要望で手紙に書き添えたこともある。12月のクリスマスパーティには1回目の家族会を予定している。	面会時に家族から要望を聞き、申し送りノートで共有している。今年のクリスマス会で家族会を開催する予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会や、ミーティングでの意見は代表者が出席しているときは直接聞くことができる。出席のない時は管理者から内容を伝えている。	職員会議にて職員の意見・要望を聞く機会がある。有給休暇・健康保険など福利厚生改善がみられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長は個々の努力や実績について評議委員会や職員会又は談話の中で話しをして下さいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症の研修にひまわり職員も参加でき他の職員にも研修報告ができ認知症の方達への対応が変わってきた。大島地区での勉強会、地域の勉強会、母体施設での勉強会にも積極的に参加して知識を深めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や認知症連絡協議会等の勉強会に多くの職員が参加することが出来、他の施設職員と交流が出来たことで質の向上につながっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人家族とあい面識を深め今までの生活状態を把握し出来る限り本人との信頼関係を築く様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	1日も早く入居させてほしいと望む家族の要望に何度も足を運び実情を理解して貰うのに苦労した。1年5ヶ月を待って入居できた家族の喜びは大きい		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、待機時点でどのサービスを利用出来るか、また利用したら良いかを、家族、本人と話し合い、家族の負担軽減につとめている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同郷の好みで・・叔父・・叔母と呼び合い親しく生活が出来るように心がけている。島歌や島語れをしたり、楽しい時間が持てるように配慮している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠距離にいる家族とは月1度のお手紙又は電話での連絡を密に取るように心がけ寂しさを持たせないように職員が配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	理美容院はかかりつけの予約をとり家族の方が一緒について貰っている。家族の都合の悪い方、遠方に居る方は職員が同行している。	利用者の兄弟の家・墓参り等馴染みの場所への同行や利用者が住んでいた場所の近隣の方の事業所への訪問など継続できるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食卓等は気の合う同士を隣席にすることで話しが弾み笑いがあがる。時にはかみ合わない会話もあるが職員が間に入る事で楽しい雰囲気になる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療優先でやむなく退園されたかたへの病室見舞いや声掛けに努め、家族の方にも声をかけ絆を深めていくように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に合わせ声掛けを行い意思表示の困難な方は表情やジェスチャー等で場面をつくっている。	本人の言葉・家族からの情報・職員の気付き等をカンファレンスで話し合い、利用者の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に自宅訪問等を行い、家族や関係者から病歴、生活歴を聞き取り、ひまわりで安心して生活ができるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のやりたいことや気持ちを表情からくみとり、その人のペースに合わせた行動が取れるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせる事を大切にしながら家族からの情報も検討しながら職員と一緒に介護計画をたてている。	月末の日勤職員と計画担当者が、毎月のモニタリングを行い、計画担当者が3ヶ月毎に評価を行い職員・家族の意見を聞き、6ヶ月ごとに介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当職員を主にして他の介護職員の意見もとりにいれながら、実践にとりくんでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	理美容員の送迎、定期受診への付き添いなど家族の要望にも応え支援できるように努めている。		

鹿児島県 グループホーム ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域マップを取り入れ災害時の協力体制作りとボランティア等の受け入れ協力を求めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の希望に応じて、かかりつけ医師や協力医療機関で受診出来るように連携を取り支援体制をとっている。	在宅時からのかかりつけ医になっている。定期受診は、家族に日常の報告をして同行してもらっている。家族が遠方の方は、職員が同行している。歯科・眼科は訪問診療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療、透析係、母体施設の看護職員と常に連携を取り合い、介護職員との連携も密に摂れる体制が確保されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の情報を医療機関に提供し、早期に退院ができるように医療機関との連携もとれている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者介護ニーズの重度化に伴い終末ケアの必要性について利用者本人の希望、家族の要望が多く有り重要な課題となった。当法人の設置運営している訪問看護事業所に業務委託をしたい考え、契約締結に向けて準備を進めている。年度内の成立を目指している。	左記のような考えで、利用者の重度化に伴い、訪問看護事業所との契約を進めているが、家族に事業所の方針を伝えていない。	事業所の重度化における指針をはっきり家族に伝え、同意をもらえる仕組みを作ることを希望します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救急対応の実技の講習を受け救急対応が出来る体制を整えている。防災訓練の場でも救急対応の実技の場面を体験出来た。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定も含め、年2回防災避難訓練を消防所立ち会いのもと、実施している。地域自治会の自主防災組織図も活用し、自治会長の協力も得ている。年2回の消防設備の点検を実施し消防署へ提出している。	昨年9月にスプリンクラーを設置し、災害時に町からの連絡放送が流れる防災無線機を導入している。町の防災訓練に参加し、地域とのつながりを作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時は入り口の戸を閉める。カーテンで目隠しをするなどミーティングで常に職員へ伝え徹底をはかっている。	トイレが各居室に設置され、羞恥心への配慮を心がけるよう口頭で伝えているが、施設内研修は実施されていない。マニュアルの内容が、個人情報保護法に関するものである。	個人情報保護法だけでなく入浴・トイレでの羞恥心への配慮・声かけ等を組み込んで、マニュアルを充実し研修に役立たせることを望みます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意志表示の出来ない方は表情等でくみ取り小さな事でも自分で決める場面をつくっています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人優先で一人一人の体調に配慮しながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替え等はあくまでも自分で準備をして貰っています。出来ない方はお手伝いしながら、本人に決めてもらっています。理美容院に行った時はきれいに成ったと意識して帰ってきます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士の献立が主になるが、寒い日や暑い日は山羊汁や、冷やしそうめんなどに変更することもある。又隣り近所からいただいた野菜などを使った献立変更も常にあり、昼ご飯を一緒にいただいている職員から献立報告もしている。	島野菜を畑で作り、島料理や野菜を使った料理方法など利用者に教えてもらいながら調理をしている。弁当を作り海や山に遠足に出かけ、外での食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立で栄養バランスは出来ているが医師からの指示がある人は毎日卵をつけたりとか、対応はできている。水分量は1日1,500~2,000CCを目安に摂って貰っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは歯科医の指導で全ての職員が理解し、その人の力に応じて歯磨きの手伝いをしていく。義歯の人は就寝時に洗浄液につけて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いトイレ誘導、介助を行って居ます。夜間だけ本人希望で紙パンツを使っている方もいるが、自立支援にむけて職員も手伝っている。	立位訓練・下肢筋力訓練を介護計画に取り入れ、トイレでの排泄の自立を目標にしている。各居室にトイレがあるため、利用者の力量に合わせてベッドを配置して、夜間でもトイレでの排泄に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全員便のチェック表を用いている。便が4～5日確認が出来ない時は主治医から処方されている便秘薬を使用することもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週日程は決まっているが、浴室はいつでも使っているように解放しています。誰が一番とは決めていません。タイミングを観ながら入ってもらうこともあります。午前中受診の方は受診時に合わせて入浴することもある。	入浴日を月・水・金曜日と決めているが、毎日でも可能である。蓮の季節にたくさん摘み、蓬湯にして楽しんでいる。入浴後は、くびきの煎じ茶を常時準備して飲んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜はゆっくり眠る事が出来るように日中の活動を促し生活リズムを整えるように努めています。寝付けない方は暖かいお茶などを勧め気持ちよく眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の大切さを理解し拒否する方にはどうしたら飲んで貰えるか、工夫している。投薬を間違えたら大変な事になると、緊張感も持ちながら、飲んだ、飲み込んだを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブルやお膳を拭いて下さる方、ラッキョウの繕い出来る方、限られたかたの協力になるがそれぞれの力を発揮出来るように協力をお願いし「ありがとう」をつたえている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お兄さんの所に行ってみましょうかと声を掛け同意が出来たら一緒に出かけ喜んだケースもいくつかあります。行事など祭りごとなどは条件が良いときは見学など参加出来るように支援しています。	歩行困難な方も車椅子で散歩を楽しんでいる。晴天時は、玄関前でお茶を飲みながら、日光浴・外気浴をしたり、町内のドライブに出かけている。	

鹿児島県 グループホーム ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己責任でお金を所持している方もいます。預かり金の中で、受診時職員が付き添って行くときは財布をわたし自分で支払いが出来るように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状は本人の写真を貼付し名前を書ける方は自分で書いてもらい新年のご挨拶にしています。必要に応じて写メールを送ったり、月々の便りに状態をお知らせしたり要望をきいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋はその担当の個性を生かせるようにしています。手芸クラブ、園芸クラブをつくり、中の装飾は手芸に、周囲は園芸にとクラブで管理できています。	広いホールの中央に、利用者の食卓テーブルと椅子が配置されている。利用者の好きな懐メロが流れ、口ずさむ方もいる。ホールの周囲は居室になっているため高い天井の天窓から光が差し込み、外の景色が見えるように、各居室の戸を開放して入り口に暖簾を掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓は気の合った同士の配置にして、ゆっくり食事が摂れるようにしている。昼食は職員も一緒に摂れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた日用品が持ち込まれ安心して生活出来るように支援しています	各居室にトイレ・洗面所が設置されている。夜間トイレでの排泄が可能になるように、利用者の力量に合わせて、ベッドを配置している。担当職員が掃除し管理している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居前に手すり、トイレとベットの位置を見て貰い安全で自立した生活を目指した支援をしている。		